

衆議院法務委員会ニュース

平成 22.2.24 第 174 回国会第 2 号

2月24日(水) 第2回の委員会が開かれました。

1 裁判所の司法行政、法務行政及び検察行政、国内治安、人権擁護に関する件

- ・千葉法務大臣、中井国務大臣(国家公安委員会委員長)、加藤法務副大臣、細川厚生労働副大臣、中村法務大臣政務官、政府参考人及び最高裁判所当局に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

樋 高 剛君(民主)

- ・新司法試験の受験者のうち、環境法を選択した受験者の数及び割合はどの程度か。また、環境系の案件を専門とする裁判官は全国でどのくらいいるのか。
- ・近年、環境に対する国民の関心が高まっている。今後、法曹界にも生態系や生物多様性などの環境問題が理解できる人材の養成が必要だと思われるが、法務大臣の所感を伺いたい。
- ・社会復帰の手助けになるよう少年院等の矯正施設に自然とのふれあいにに関するプログラムを導入するべきと思われるが、法務大臣の所感を伺いたい。

熊 谷 貞 俊君(民主)

- ・外国人の受入れに当たっては、高度人材のみではなく、近隣諸国から夢を求めてくる者に機会を提供するといった形の受入れということもあってよいのではないかと考えるが、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・技能実習制度は、国際貢献にとってどのような意味を持っていると考えているか。
- ・留学生の増員計画の中で、留学生を増やしていくために、法務省としてはどのような環境整備を考えているか。

橘 秀 徳君(民主)

- ・児童虐待の現状について、児童相談所への相談件数、そのうち死亡に至った件数及び人数、警察における検挙件数、人数、死亡に至った被害児童数を伺いたい。
- ・法務大臣は本年2月5日に親権制度の見直しについて法制審議会に諮問したが、諮問の意義について伺いたい。また、児童虐待の防止のためには親権の一部制限、一時停止が必要であると考えますが、法務大臣の所見を伺いたい。

- ・再犯防止対策において、満期釈放者については保護観察の対象とならないなど十分な支援を行うのが難しい状況であるが、満期釈放者に対する支援策について伺いたい。

長 島 一 由君(民主)

- ・法務大臣の使命は何であるととらえているか。死刑の廃止についてアクションを起こす考えがあるか、それとも在任中は封印するのか。法務大臣の見解を伺いたい。
- ・選択的夫婦別氏制度のネーミングが誤解を招きやすいのではないかとと思われるが、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・国家権力と人権という観点から、法務大臣の憲法に対する認識を伺いたい。
- ・企業への家宅捜索がテレビで報道されると企業がダメージを受けると思うが、家宅捜索はマスコミに通知してから行っているのか。法務当局の見解を伺いたい。

神 崎 武 法君(公明)

- ・裁判員制度のこれまでの実施状況について伺いたい。
- ・裁判員裁判で示された量刑について検察官が控訴したケースがないことについて、法務大臣の見解を伺いたい。また、保護観察付判決の増加に対して、保護司が少ないことについての法務大臣の所感を伺いたい。
- ・死因究明に関して、警察庁有識者会議の提言の見通し及び検視官増員の必要性について国家公安委員会委員長の見解を伺いたい。
- ・検察審査会の起訴議決制度導入の趣旨について法務大臣に伺いたい。また、裁判所が指定する指定弁護士の能力・見識の判断基準と指定弁護士から捜査の指揮を囑託された検察官の対応について最高裁判所当局に伺いたい。